

第5回 篠岡地区の学校を考える会委員 議事要旨

日 時	令和8年2月7日（土） 10時 ～ 11時30分
場 所	小牧市東部市民センター 講堂
出席者	<p>【委員】 別紙のとおり</p> <p>【事務局】 中川 宣芳 教育長 矢本 博士 教育部長 岩本 淳 教育部次長 丸藤 卓也 教育総務課長 瀬尾 宗利 学校教育課指導主事兼主幹兼教育総務課主幹 長屋 孔之 教育総務課学校再編推進係長 稲垣 翔太 教育総務課学校再編推進係主任</p>
欠席者	金子委員、鬼頭委員、長橋委員、西馬委員、深堀委員、福田委員、船橋委員
傍聴者	46名
配布資料	資料1 篠岡地区学校再編計画（案）

内 容

<p>1 開会</p> <p>2 議題</p> <p>(1) 篠岡地区学校再編計画（案）について</p> <p>事務局よりパブリックコメントを踏まえて見直した計画案、スクールバスの検討状況や安全対策（添乗員の配置及びシステムの導入）、学校再編に向けた令和8年度以降の取組などについて説明を行い、以下のような質疑応答等を実施</p> <p>【委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度替わり、校長先生をはじめ現場教職員の方々の退職や異動があると思う。再編後の学校運営や授業、行事などのことを考えている人がいなくなってしまう可能性があるが、どのように考えているか。 <p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人事異動等については、ある程度、やむを得ない部分もあるため、今回、このように計画を作成し、例え、異動があっても適切に学校再編が行われるよう準備してまいりたい。 <p>【委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パブリックコメントについて、反対的な意見が多いように感じる。市教育委員会としては、これで合意形成が得られていると考えているのか。

【事務局】

- ・これまで住民説明会等をはじめ、機を捉えて、児童生徒数の減少とこれに伴う教育的な課題について繰り返し説明をしてきたところであり、学校再編の必要性については十分に理解が得られていると考えている。
- ・そのうえで、パブリックコメントをはじめ多くの方から、特に学校再編の時期に対する懸念の声を頂戴しており、そこに対しては、より丁寧に準備を進めていくことで、不安の解消に努めてまいりたい。

【委員】

- ・未就学児を含む全世帯を対象にアンケート調査を実施する考えはあるか。

【事務局】

- ・先ほどのスライドの資料のとおり、令和8年度中に保護者をはじめ、すべての地域住民を対象に、改めて説明会を実施することを計画しているところであり、アンケート調査については現在のところ計画していない。

【委員】

- ・議会をネットで見ている際、「合意形成を得たうえで執行する」旨の発言があったと思うが、合意形成が得られた状態とはどのような状態か。

【事務局】

- ・まずは市教育委員会の学校再編に対する考え方や必要性を丁寧に説明することが重要と考え、この1年間、様々な形で情報発信に努めてきたところ、様々な立場の方から多様なご意見、ご提案を頂くことができ、大変ありがたく思っている。
- ・そのどれもが重要なものであり、すべての意見を集約することは困難だが、そうした中でもやはり先ほど申し上げたとおり、「学校再編の必要性」については十分に合意形成が図られたとの認識から、市教育委員会の責任の下、本計画を確実に前に進めていく考えである。

【委員】

- ・今回、第1期における学校名案の提示に伴い、校章や校歌についても考え方を示されたが、改めてもう一度ご説明願いたい。

【事務局】

- ・校章については、しのおか学園の学園章との位置づけの下、令和8年度中に再編後4校で、統一した校章を作成していく予定。
- ・校歌については、現段階では小中学校で統一するかどうかも含め、意見を伺いながら、令和9年度以降に検討を進めていく。
- ・今回の学校再編では「学校名はそのままで」というご意見もある中、どこかの学校への統廃合ではなく、新しくしのおか学園としてのスタートであることを強調し、共有するために新しい学校名を用いるという点についてご理解をお願いしたい。

【委員】

- ・今回、「桃花台〇〇学校」という名称を提案いただいたが、学校区である「篠岡」の一地域の名称である「桃花台」が学校名として用いられることに疑問を感じる。

- ・第2期再編時、1つの学校に再編されたときのことも踏まえ、最終的な学校のあり方をイメージしながら考えていく必要があったと思う。

【事務局】

- ・当初、事務局からは東部地域の歴史を踏まえ、「篠岡〇〇学校」という名称を提案したが、様々なご意見をいただいたことから、アンケート調査を実施し、今回、その結果を最大限尊重したものととして「桃花台〇〇学校」という名称を提案させていただいた。
- ・また今回の計画では主に第1期再編に焦点を当てており、第2期再編については、今後の児童生徒数や施設の老朽化など、様々な状況を踏まえ検討を進めることとしている。
- ・第2期における学校名についても同様に、改めて児童生徒や保護者、地域の方々と議論を持ち、検討していく必要があると考えている。

【委員】

- ・先ほど別の委員から合意形成の話もありましたが、どんな計画であれ、すべての人が100%合意する、というのは難しいと思う。
- ・そのうえで求められるのが結果であり、結果的に素晴らしい学校ができれば反対のご意見を持っていた方も納得されると思う。
- ・また学校がなくなると地域が衰退する、というご意見もあるようだが、魅力的な学校ができれば「是非とも通わせたい」という人が出てくる可能性もある。
- ・実際に学校再編が地域の活性化に繋がった、という他市事例もあると聞く。
- ・子供たちが心豊かに、伸び伸びと育ち、なおかつ、篠岡地区、桃花台地区の価値を高め、発展の起爆剤となるような、そんな素晴らしい学校を作っていただくことを要望する。

【委員】

- ・城山三丁目、四丁目の就学校の指定変更に関する措置は暫定的なものなのか、それとも第2期再編まで継続的に実施されるものなのか。

【事務局】

- ・指定変更の取り扱いについて、時期は未定ながら、第2期再編までは制度として継続していくことで考えている。

【委員】

- ・スケジュールについて、2月に計画策定とあるが、2月をもって令和9年度の実施が決定されるという理解で良いか。

【事務局】

- ・本計画は市教育委員会が策定するものになることから、2月の教育委員会において計画策定する、という意味で記載している。一方で計画を実行に移すうえで、学校設置条例の改正が必要になるので、条例の改正をもって最終的な決定となると考えている。

【委員】

- ・毎年、全国で多数の学校は再編や統廃合をされているが、どの地域でも恐らく、諸手を挙げて賛成、ということではなく、子どもたちのため、地域のため、やむを得ず実施に至ったというケースばかりだと思う。
- ・また学校規模が小さくても良いじゃないか、という意見も当然、あると思うが、やはり子

ども同士の関わりが少なくなること、それから先生方の立場からすると、少し大きい学校ならチームで学年を運営でき、例えば修学旅行や遠足などの学年をあげての行事企画に知恵を出し合って準備できるが、小規模校では1人ですべて考えることになる。

- ・さらに現在、新しい学習指導要領が考えられているが、ICTの知識やタブレットの導入に伴い、人と人との関わりの重要性が増々高まっていくと思われ、得られた知識をどのように活用するのか、教育の内容が大きく変わる変革期にあると思う。
- ・一方で本日の説明にもあったように、現在生まれている子どもたちの数はわかっており、大きく増減する可能性は低いことから、第2期の検討を始めることができるはず。他市町でも区画整理や新しい学校の建設に伴い、児童生徒数が増大した例もあることから、篠岡地区においても新しい魅力的な学校を創り上げていくため、計画的に第2期のことを考えていく必要があると思う。
- ・最後に再編に伴って一番大変なのは学校の先生方と思うので、市教育委員会については現場の先生方に対して最大限のサポートをいただくようお願いしたい。

【委員】

- ・学校再編に伴い、廃校になる学校施設等の不用品について、例えば児童館で再利用するなど、柔軟な運用を検討されているか。

【事務局】

- ・学校備品については、再編後も可能な限り継続して運用することを前提に、重複する備品等があれば市内の他の学校で有効活用を検討している。
- ・そのうえで、他の公共施設等での利用についても柔軟に検討していく。

【副会長】

- ・他に無いようであれば、これで質疑応答は終了とさせていただきます。
- ・最後に会長から本日の会議の総括をお願いします。

【会長】

- ・はじめに市教育委員会においては、昨年の5月に第1回の学校を考える会が開催され、58名の委員の皆さまと今日まで真剣に議論を重ね、保護者との意見交換会、住民説明会、アンケート調査、パブリックコメントなどを経て、計画案について、見直すべきところは適切に、柔軟に見直しをいただいたと感じている。
- ・また副会長をはじめ委員の皆さまについては、円滑な会議の進行にたくさんのお力添えをいただき、多大なる感謝を申し上げたい。
- ・また貴重なお時間を割いて、会議の傍聴にお越しいただいた市民の皆様にも、心から感謝を申し上げます。
- ・第1期の学校再編に向けた準備期間は1年であり、子どもたちが安心して楽しく通え、多くの友達と、ともに学ぶ喜びを感じる環境を整えるには、学校現場だけでなく、学校を取り巻く地域の力も極めて重要と考えている。
- ・関係者の皆さまの一層のご尽力をお願いして、私からのあいさつとさせていただきます。

【副会長】

- ・以上をもって、本日の議題は全部終了したので、進行を事務局にお返しする。

3 閉会

【事務局】

- ・閉会にあたり、中川教育長よりごあいさつ申し上げます。

【中川教育長】

- ・この学校再編の取組は、小牧市では経験のない、大変難しい取り組みだが、篠岡地区の子どもたち、これから篠岡地区で生まれ、或いは育っていくすべての子どもたちのために、1年にわたり熱心な議論を重ねていただいたこと、委員をはじめ、皆様方にお礼を申し上げたい。
- ・委員の皆様方、保護者や児童生徒、教職員の皆様、そして多くの地域の方々のご協力により、本計画案をまとめることができた。
- ・今日の少子高齢化に伴う児童生徒数の減少については、今更言うまでもないが、これから小中学校で学び、卒業していく子どもたちは高校、大学が今後直面する高等教育・大学教育の大変革期にあたる世代になる。
- ・大学進学のパークと見られる2026年、そして2040年には成人人口が約82万人と底をつく世代でもあり、加えて、デジタル技術の進展によって現在の仕事、特に知的作業の多くがAIにとって代わられる、というような予想もされている。
- ・こうした不透明な時代を生きる子どもたちの確かな生きる力を育むため、多様な価値観に触れて、これを認め合い、協働して学ぶことのできる人間力を育むことのできる教育環境を整えていく必要があり、喫緊の課題でもあると考えている。
- ・これまでの議論の中でも、学校規模の適正化と質の高い教育の充実に向け、学校再編が必要であるという点については、合意形成が図られたものと考え一方、その実施時期に対するご懸念の声をいただいていることも承知しており、それらは我々の情報発信に課題があり「準備が間に合うのか」「議論が足りないのでは」といった印象を与えてしまった部分があると考え、情報発信の方法についても改善に努めてきた。
- ・本計画案はあくまで篠岡地区の学校再編の方向性を定めるものであり、これからの1年間こそが学校再編にとって、真に重要な時間である。学校再編に向けて、この1年間を充実したものにすることで、そうした懸念を払拭したいと考えている。
- ・会議の中でも第2期を見据えて、スピード感をもって検討して欲しいといったご意見や、篠岡地区の学校を世界に誇れる素晴らしい学校にして欲しい、というお声もいただいた。他市町の取組を視察しても、学校再編後、「校区外から通いたい」という声を多くいただく、という話や、再編前の学校の記憶が、卒業生の方々の思い出として残るよう、新たな学校の中にブースを設けるような取組をされている話も聞いた。
- ・そうしたことも含めて、現在の、そして将来の子供たちのためにすばらしい学校になるよう、まずは学校再編に向けた第一歩をこの令和8年度に精力的に進め、そして、将来にわたって地域に誇れる、愛されるような学校を創り上げていくことを、この場でお約束をさせていただく。
- ・皆さまには今後ともお力添えをお願い申し上げたい。

